

研究課題（テーマ）		大学教員および実習指導者の連携強化を目指した研修プログラムの実施とその効果検証	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部 看護学科	准教授	三善 郁代
分担者	看護学部 看護学科	助教	竹口 将志
分担者	看護学部 看護学科	講師	濱野 初恵
研究結果の概要			
【背景・目的】 本学は富山県内の多数の施設で臨地実習を行っているが、富山県内における医療施設は、実習で大学教育を受けた看護学生を受け入れる機会が少ない現状がある。実習指導者は、看護系専門学校との実習形態の違いによる大学教育における実習への戸惑いや困難さを感じている状況がある。そこで、教員と実習指導者等の連携強化および大学教育における実習について相互に理解することを目指し、県下の実習施設の実習指導者を含む学生を指導する看護職者（以下、実習指導者）を対象に、実習指導者・教員連絡会（以下、連絡会）を企画・開催し、連絡会における研修プログラムの実施が、実習指導者の指導意欲に及ぼす効果を検証することを目的とした。 【方法】 実習指導者・教員連絡会は令和5年度8月20日に開催した。参加者は、教員53名、実習指導者68名である。そのうち連絡会に参加した実習指導者のうち同意を得られた37名を対象とし、連絡会参加前・後に指導意欲に関する自記式質問紙調査を実施した。質問紙調査の指導意欲の項目内容は、仕事意欲測定尺度（佐野ら，2005）を原作者の許諾を得て一部改変した。 本研究は富山県立大学「人を対象とする研究」倫理審査部会の承認を受け実施した。 【結果】 指導意欲15項目の合計は、研修会前に比べ、研修会後において有意に得点が高く、特に15項目中7項目が研修会後で有意に得点が増加した（$p<0.001$）。自由記述から連絡会での学びにより、指導意欲の向上に繋がる内容が示されていた。よって、連絡会は臨地実習に対する実習指導者の指導意欲向上において一定の効果を認めることができたと考える。			
今後の展開			
R5年度実習指導者・教員連絡会に参加した実習指導者を対象に、実際の実習を通して学生指導を行った後の指導意欲等に関する自記式質問紙調査を予定している。 また、教員と直接実習に携わる実習指導者等との意見交換を図り、看護学実習の質を向上させるため、継続的に実習指導者・教員連絡会の開催を計画していく。 なお、本研究の成果は学会発表と論文発表を行う予定である。			